

# 日光ウォーキングガイド

## 滝尾の路

## 憾満の路

### 憾満の路

#### 1 浄光寺(じょうこうじ)

浄光寺は、古くは往生院といひ、滝尾神社参道入口の仏岩にあったが、寛永17年(1640)に現在の地に移り、この地域一帯の菩提寺となった。ご本尊は、春日仏師作と伝えられる阿弥陀如来三尊坐像。本堂は昭和48年に増改築されたものであるが、境内には、この寺の長い歴史を物語る史跡が数多くある。



#### 2 梵鐘(ぼんしょう)

浄光寺の石屋根の山門をくぐってすぐ左手に石積の鐘楼がある。日光山最古の梵鐘で、室町時代の長祿3年(1459)に源親が本宮権現に奉納したものである。銘文に古河公方の足利成氏が当将軍と名乗っていることや、文明8年(1476)座禅院権別当となり、日光山に文化の花を開かせた昌源の名も見える。



#### 3 憾満親地蔵御首(かんまんおやじぞうおんくび)

明治35年(1902)9月の暴風雨は、日本中に大きな惨禍をもたらした。日光でも大谷川が氾濫し、ここ浄光寺の対岸の並地蔵や茶屋も流失。並地蔵の列座の奥に置かれていた親地蔵もあつたとき流失された。その御首が川床に埋没していたのを、地元の人が見つけ、浄光寺に安置した。



#### 4 菅笠日限地蔵尊(すががさひぎりじぞうそん)

「日に限って願いごとをするを必ず叶えられる」ということからこの名がある。石の菅笠をかぶった姿が珍しい。この地蔵には、奉行所から命じられた開こん奉仕に出られない病気の老人に代わって動めてくれたという伝説があり、現在も安産・子育て・学業成就・病氣平癒などを願う参詣客が数多い。



#### 5 防火隊碑(ぼうかたいひ)

防火隊とは、江戸時代、東照宮などを守るために組織された火の番のことで「日光火之番」と呼ばれていた。当地において客死した隊員も多く、その供養のために天保5年(1834)在勤頭の山本金右衛門が、同志の協力を得てこの碑を建てた。



#### 6 導き地蔵尊(みちびきじぞうそん)

導き地蔵の意味は、仏の道への導きだといふ。中央奥の一番大きな石仏が「導き地蔵尊」で、天文19年(1550)の造立。現存する日光山最古の石仏といわれる。左の大きい石仏は文祿5年(1596)、右は寛永13年(1636)造立の銘がある。小さな石仏二体は「みみだれ地蔵」と呼ばれ、耳病平癒に靈験があるという。



#### 7 大正天皇御製歌碑(たいしやうてんのうぎせいかひ)

大正天皇は、日光をこよなく愛され、明治29年(1896)から大正14年(1925)まで、延べ680余日日光に滞在された。この間に詠まれた水辺夏月と題する「衣手もしぶきにぬれて大谷川月夜涼しく岸つたいせり」の歌を、昭和51年に清水比庵氏(名誉市民、昭和50年没)の書により建立したものである。



#### 8 霊誓閣(れいひかく)

日光山第54世座主の兎海僧正が、承応3年(1654)に建立した護摩壇で、対岸の不動明王の石像に向かって天下泰平を祈る祈とう所となった。当時の建物はこわれて磁石のみとなっていたが、昭和46年、輪王寺によって復元された。



#### 9 並び地蔵(化け地蔵)

慈眼大師天海の門弟や、有縁の僧俗が「過去万霊・白己菩提」のために、親地蔵と石地蔵約100体を刻み「並び地蔵」とした。列座の奥の親地蔵と他の地蔵のいくつかが明治35年(1902)の大洪水で流失した。当初100体余りあった並び地蔵は、現在74体しか残っていない。別名「化け地蔵」・「百体地蔵」と呼ばれる。



#### 10 憾満ヶ淵(かんまんがふち)

男体山から噴出した溶岩によってできた奇勝で、古くから不動明王が現れる霊地といわれる。川の流れて不動明王の墓言を唱えるように響くので、兎海僧正が墓言の最後の句「カンマン」をとり、憾満ヶ淵と名付けたという。元禄2年(1689)松尾芭蕉も奥の細道行脚の途中立ち寄っている。



#### 11 松尾芭蕉 句碑(1)

あらたふと 青葉若葉の 日の光  
安良沢小学校に隣接する大日堂跡園地内にある。日光市内にある芭蕉四句のうち、芭蕉「奥の細道」に出てくる名句。碑の裏に説明があり、ここに古い碑があったが、大洪水で流されてしまったので、もとの石刷りを写して再建した。



#### 12 松尾芭蕉 句碑(2)

しばらくは 滝にこもるや 夏の初  
安良沢小学校玄関前にある句碑は、元禄2年(1689)4月、芭蕉が奥の細道行脚で日光を訪れ、一泊の後、帰路裏見の滝に立ち寄った時の句である。「夏(け)とは夏行、夏安居、夏篋の略で僧が季節的修業をすることを意味する。



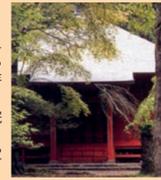
#### 13 殉死の墓(じゆんしのはか)

釈迦堂境内の西側に、殉死の墓がある。これは、慶安4(1651)年4月20日の徳川3代将軍家光公の死に殉じた江戸の5名の忠臣と、徳川譜代家臣19名の墓で、墓石は高さ3メートルを超える堂々としたものです。家光公の乳母だった春日局(かすがのつばね)の元主人である、稲葉正成の名前も見える。



#### 14 釈迦堂(しゃかどう)

釈迦堂は、初め東照宮御仮殿の地であったが、元和3(1617)年に開山堂があった崖に移され、そのときに一山の菩提寺として妙道院が建立された。寛永18(1641)年に、釈迦堂と妙道院は現在の田母沢の地に再び移築された。明治初年に火災で妙道院は焼失。釈迦堂だけが、昔のおもかげを伝えていた。



#### 15 日光田母沢御用邸記念公園(にっこうたもざわごようていきねんこうえん)

日光田母沢御用邸記念公園では(旧日光田母沢御用邸)は、大正天皇(当時皇太子)のご静養のため、明治32(1899)年に造営された。建物の広さは4500平方メートル、部屋数は106。江戸・明治・大正時代の建築が融合し、建築学的にも大変貴重であるといわれ、これほど大規模な木造建築は全国でも数少ない。



#### ちよつど寄り道 寂光ノ滝(じゃっこうのたき)

高さ50m、幅6m、7段に別れて豪快に落ちている。昔から名瀑として知られ、「布引の滝」、「七滝」などの別称を持つ。「寂光瀑布」として「日光八景」のひとつに数えられている。近くに若子神社があり、その左手を下りていくと滝が見えてきます。訪れる人も少なく、まさに穴場的スポットのひとつです。



#### ちよつど寄り道 裏見ノ滝(うらみのたき)

華厳滝・霧降滝とともに日光三名瀑のひとつに数えられる。かつて滝の裏側から滝を眺めることができたので、この名がある。滝の高さは19mでそれほど大きくないですが、新緑の時期や紅葉の時期などはとても味わい深い滝です。駐車場も整備され、滝への道も木道が整備され安全です。



#### 温泉紹介 やしおの湯

日光国立公園の中心地「日光」日光連山の山ふところにいだかれた日光和の代温泉「やしおの湯」。効能は、神経痛、筋肉痛、五十肩、運動麻痺、慢性消化器病、疲労回復、健康増進等 ●日光市清滝和の代町1726-4 ●TEL 0288-53-6611



### 滝尾の路

#### 1 神橋(しんきょう)

世界遺産・重要文化財である神橋は、大谷川に架かる長さ28mの松木造りの美橋。天平神護2年(766)日光開山の祖、勝道上人一行が、この激流を渡れず、神の加護を求めたところ、赤青二匹の蛇が兩岸を結び、無事に渡れたとの伝説がある。



#### 2 板垣退助銅像(いたがきたいすけどうぞう)

「板垣死すとも自由は死せず」との名言で知られる明治の元勳、板垣退助。明治元年(1868)の戊辰戦争では、官軍の参謀を勤め、日光廟にたてこもった上野彰義隊と会津藩士の連合軍の指揮官大島圭介と話し合せて戦いを納め日光を戦火から守った日光にとっての大恩人。



#### 3 天海大僧正銅像(慈眼大師)

神橋の近く、国道東側に昭和51年、彫刻家倉沢実氏の製作により建立された銅像。家康、秀忠、家光の三代の将軍に仕え、慶長18年(1613)に日光山貫主となり、疲弊の極にあった日光山を再開し、空前の繁栄をもたらした。その功績は「日光中興の祖」と称されている。



#### 4 深沙王堂(蛇王権現)

大谷川左岸、神橋の正面にある。勝道上人一行を、山管の蛇龍(伝説で渡した深沙大王(毘沙門天)を祀る。別名蛇王権現。現在の堂は昭和53年の再建。昔は、扇の要をはずして供えると、願いがかなうという信仰があった。



#### 5 太郎杉(たろうすぎ)

深沙王祠前、国道に樹幹をさらす神橋付近老杉群の中でも、最も見事な巨木。室町時代の昌源杉の一つであり、最も大きく優れた姿であることから太郎杉と呼ばれている。樹高は43m、目通5.75m、推定樹齢は550年。



#### 6 本宮神社(ほんぐうじんじや)

日光二荒山神社の別宮。二荒山神社発祥の地に、勝道上人が延暦9年(790)に建てた。味相高彦根命(あじすきたかひこねのみこと)を祀る。



#### 7 四本竜寺 三重塔(しほんりゅうじさんじゅうのとう)

源実朝の供養のため、仁治2年(1241)日光山二十四世座主弁覺が、現在の東照宮の地に建てたものを後にここに移した。最初の塔は大同2年(807)に建てられたという。本宮と同じく、貞享の大火(1684)で焼失、翌年再建されたのが現在の塔である。最下層の蛙股に十二支の彫刻がある。



#### 8 四本竜寺 観音堂(金剛堂)(しほんりゅうじかんのんどう)

四本竜寺(日光発祥の地)境内にある奇楼造り、丸柱桑木地の建物。大同2年(807)下野国司の橋利遠が、千手観音を祀ったが、明治7年金剛童子を併祀、金剛堂とも呼ばれる。隣接して、古い石の護摩壇がある。



#### 9 小玉堂(児玉堂)(こたまどう)

弘仁11年(820)、弘法大師空海が滝尾で修行をした折、八葉蓮華池の中から大玉二つのお白玉が浮かび出た。空海は、小の玉を虚空藏菩薩の本尊として小玉堂を建てて祀った。



#### 10 開山堂(かいざんどう)

弘仁8年(817年)、勝道上人が83歳で亡くなると、弟子たちは仏岩の上で、上人を荼毘にふした。東照宮鎮座の時、墓所をこの地に移し、上人供養の霊廟として、重層宝形造り、朱塗りの堂宇を建て、開山堂と名づけた。



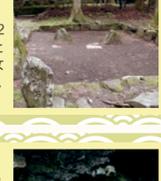
#### 11 勝道上人の墓(しょうどうしやうにんのはか)

日光開山の祖、勝道上人仏岩で荼毘にふされた。当初遺骨は仏岩谷の上に埋葬された。東照宮鎮座のおり、開山堂が建てられた遺骨も開山堂裏に移された。「勝道上人の塔」と石台に刻まれた五輪塔の墓がある。脇にある別の石欄に囲まれた三基の墓石は、弟子の墓。



#### 12 観音堂(産の宮)(かんのんどう)

開山堂の隣にある観音堂は、安産信仰の社で、別名「香車堂」(きょうしゃどう)とも呼ばれる。将棋の駒の香車が戻らずに直進する駒なので、妊婦がこの駒を借りて帰る、自宅の神棚に祀ると、無事出産できると言う。



#### 13 陰陽石(おんようせき)

香車堂の左手、樹形の石囲みの中にある2個の自然石が、陰陽石と呼ばれる。男性(陽)と女性(陰)を示すものと云われている。男女が和合し、子室に恵まれるということから、豊穡への祈りも込められるようになる。



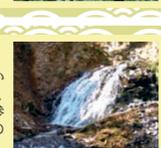
#### 14 仏岩(ほとけいわ)

開山堂の裏山、切り立った断崖一帯を仏岩と呼ぶ。仏に似た岩が並んでいたというが、地震で崩れ、今は、開山堂裏のくぼみに、六部天(うち一体系は、不動明王)の石仏が並べられている。



#### 15 北野神社(きたのじんじや)

庶民信仰の滝尾参道は、開山堂から滝尾神社まで続く。左手鳥居の奥に、梅鉢紋を刻んだ巨岩を背に小祠があり、菅原道真を祀る。寛文元年(1661)筑紫安楽寺の大鳥居僧幽が敬請され、岩に刻まれている。



#### 16 手掛石(てがけいし)

滝尾参道の途中、右手にある巨岩。北野神社に詣でた後、この石を欠いて持ち帰り、神棚に供えると、字が上達するという信仰があった。田心姫が手を掛けたので手掛石と呼ばれるが、手を掛けて祈っても良い。



#### 17 大小べんきんざいの碑

参道途中、行者堂への分岐点に建つ石の標注。古くはこの辺に、栃野門(袴門)・下乗石・木の鳥居などがあり、滝尾神社の神域に入ると、大小便などの不浄を禁じた碑。庶民にも読めるように「かなまじり」で書かれている。



#### 18 白糸ノ滝(しらいとのたき)

滝尾神社の石段手前、左奥の天狗沢にかかる高さ10mの小滝。文明18年(1486)9月、京都聖護院の門主、道興准后が、滝尾神社参詣のときに書いた「廻国雜記」に出てくるのを始め、古くからその名が知られた名瀑。



#### 19 運試しの鳥居(うんだめしのとりい)

参道樓門前にある石の鳥居。額東(中央の縦の部分)の真中に穴があり、この穴に小石を三つ投げると、うまく通ると、願い事が叶うと伝えられている。元禄2年(1689)三代将軍家光の遺臣、梶定良の奉納。



#### 20 滝尾神社(たきのおじんじや)

弘仁11年(820)弘法大師の創建。現在の建物は、江戸初期のもの、二荒山神社の別宮で、新宮・本宮と共に日光三社権現の一つ。田心姫命(たごひめのみこと)を祀る。



#### 21 縁結びの笹(えんむすびのささ)

唐門の前、一対の石欄に囲まれた中に「縁結びの笹」がある。縁結びの笹は良縁を祈ると言うことと云われ、あらゆる縁を結んでくれる。



#### 22 御神木(三本杉)(ごしんぼく)

本殿背後の石欄内にある三本の巨杉。女神の降下があったという神木だが、当初の三本は、元禄12年(1699)、延享4年(1747)、寛延2年(1749)にそれぞれ倒れ、現在の木は二代目。神木なので倒れた木は、そのまま横たえてある。



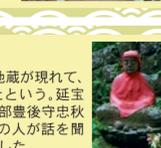
#### 23 滝尾稲荷神社(たきのおいなりじんじや)

弘仁11年(820)弘法大師が滝尾神社とともに、稲荷神社を創建。昭和41年に台風で流出し、昭和43年に再建された。昔、滝尾上人が朝のお供えを忘れると、稲荷の神が叱って出ては、催促したという伝説が残っている。



#### 24 酒の泉(さけのいずみ)

神社境内天狗沢沿いに、小さな池があり、清水が湧いている。弘法大師がこの水を汲んで、神に捧げたといひ、古くから滝尾聖水「酒の泉」と呼ばれている。醸造家たちで酒泉講が結成され、祈願祭、報恩祭が行われる。



#### 25 子種石(こたねいし)

境内西側を流れる天狗沢を渡ると、石鳥居があり、石欄に囲まれた聖石があります。古くより、この石に子供が授かるように祈願すると、豊穡高く、子室に恵まれ、無事安産するとの信仰がある。



#### 26 行者堂(ぎょうじやどう)

本尊は奈良時代の山岳呪術者、修験道の祖、役小角(えんのおすめ)。高下駄を履いた姿の木像は、暗い室内奥に、従者の前鬼・後鬼とともに安置されている。昔は神頂行者道の始まり。現在でも女峰山道の出発点。



#### 27 空畑地蔵(くうえんじぞう)

行者堂から巨杉の坂道を下った所、昔地蔵が現れて、男体山登頂を試みる勝道上人を助めたという。延宝年間(1675ごろ)三代将軍家光の忠臣、阿部豊後守忠秋の墓を大猷院の一面に作った時、阿部家の人話を聞いて、忠秋の法名をとり、空畑地蔵を建立した。



### [アクセスのご案内]

(JR・東武直通特急)  
JR新宿駅 6分 JR池袋駅 19分 JR浦和駅 7分 JR大宮駅 88分 東武日光駅

(JRご利用の場合)  
【東北新幹線】  
羽田空港 40分 東京駅 40分 宇都宮駅 45分 JR日光駅  
成田空港 60分

盛岡駅 76分 仙台駅 88分 宇都宮駅 45分 JR日光駅  
福島駅 45分

(東武鉄道ご利用の場合)  
【特急スーパー・リパティエ】  
浅草駅 115分 東武日光駅

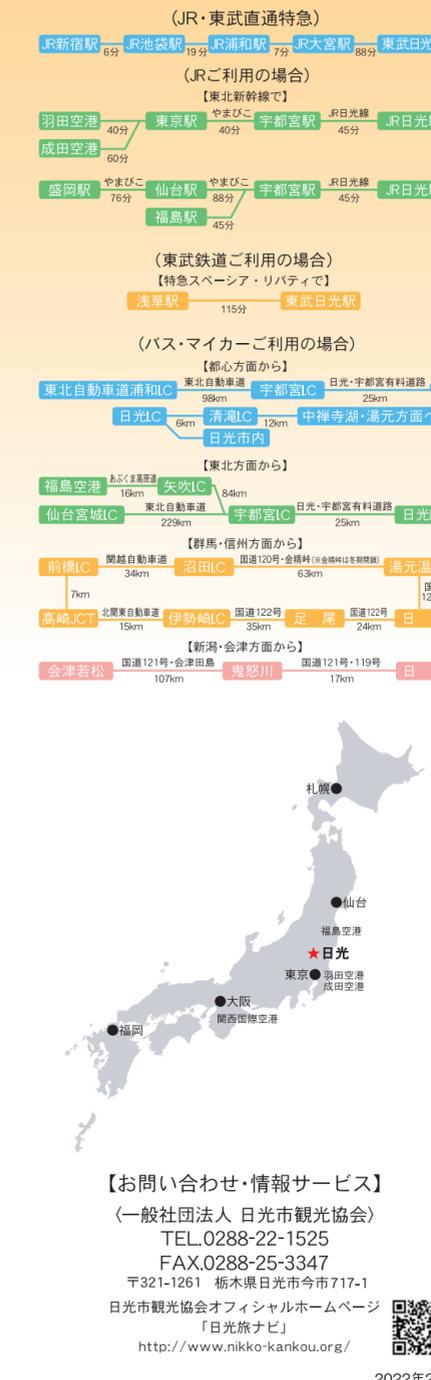
(バス・マイカーご利用の場合)  
【都心方面から】  
東北自動車浦和IC 98km 宇都宮IC 25km 日光・宇都宮有料道路  
日光IC 6km 清滝IC 12km 中禅寺湖・湯元方面へ 日光市内

【東北方面から】  
福島空港 16km 矢吹IC 84km 日光・宇都宮有料道路  
仙台宮城IC 229km 宇都宮IC 25km 日光IC

【群馬・信州方面から】  
前橋IC 7km 関越自動車道 沼田IC 国道120号・金輪峠(金輪峠は無料) 湯元温泉 63km  
高崎IC 14km 北関東自動車道 伊勢崎IC 国道122号 39km 足尾 国道122号 24km 日光 国道120号

【新潟・会津方面から】  
会津若松 国道121号・会津田島 107km 鬼怒川 国道121号・119号 17km 日光

【新湯・会津方面から】  
会津若松 107km 鬼怒川 17km 日光



# 日光ウォーキングガイドマップ

**滝尾の路** 約5Km

滝尾の路は、神橋を起点として、日光の開山の祖、勝道上人の足跡と、弘法大師空海が開いたと伝えられる滝尾神社を中心に、二社一寺境内の外周をたどるルートです。神橋と滝尾神社を結ぶ滝尾古道の老杉が生い茂る石畳の道は夏でもひんやりと涼しく浄域を醸し出しています。

**憾満の路** 約5Km

憾満の路は、旧日光総合会館を起点として、大谷川に沿ってさかのぼり、国道120号を下って街に戻るルートです。昔、中禅寺道を歩いた旅人のように、溪流から吹く風に頬をなでられ、歴史の深淵をのぞき込むときめきに心躍らせながら、街道に沿って巡ります。見どころがたくさんあるのでたっぷり時間をとりたい道です。



**東武バス路線図**

中禅寺・湯元方面	裏見の滝入口	安良沢	日光	蓮華	日光母沢御用邸記念公園	金谷ホテル歴史館	西参道入口	総合会館前	神橋	鉢石	日光郷土センター前	日光行政センター前	石屋町	東武日光駅	JR日光駅
----------	--------	-----	----	----	-------------	----------	-------	-------	----	----	-----------	-----------	-----	-------	-------

**凡例**

障害者用トイレ	駐車場	日光の美味しい水
トイレ	バス停	情報センター
史跡等	国道120	憾満の路
主な施設等	滝尾の路	



**憾満の路**

旧日光総合会館 → 石升の道 → 浄光寺 → 憾満ヶ淵 並び地蔵 → 大日橋 → 大日堂跡ポケットパーク → 日光植物園 → 殉死の墓 → 日光田母沢御用邸記念公園 → 日光真光教会 → 旧日光総合会館

**滝尾の路**

神橋 → 深沙王堂・太郎杉 → 本宮神社 → 四本竜寺 → 開山堂 → 北野神社 → 大小べんきんぜいの碑 → 白糸の滝 → 滝尾神社 酒の泉 → 行者堂 → 二荒山神社 → 神橋

至宇都宮 →